

[http://www.ilovex.co.jp/Division/ITD/archives/2004/10/oracle\\_windowsx.html](http://www.ilovex.co.jp/Division/ITD/archives/2004/10/oracle_windowsx.html)

テスト環境用等で WindowsXP(SP2) マシンに Oracle9i(サーバ:Personal)をインストールすることがあるかと思うが、この場合 Oracle は WindowsXP-SP2 の『Windows ファイアウォール』の影響もあって、そのマシンの外部からはそのままでは使用できなくなってしまう。

どうすれば使えるようになるかという、以下の3つの設定を見直さなくてはならない。

1. コントロールパネル Windows ファイアウォール  
『例外』タブ 『ポートの追加』ボタン  
TCP-1521 を追加する。(名前は自由に付けてよい)

これでマシン自身が Oracle プロトコルの開始の通信を受け付けるようになる。通常は Windows ファイアウォールで、受信パケットを全く受け付けなくなっているの、例外を設ける必要があるということ。

2. 以下のレジストリを追加する  
[HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\ORACLE\HOME0]  
USE\_SHARED\_SOCKET(文字列値) = TRUE

サーバー側の通信ポートを共有する設定にする。  
詳しくは省くが『リダイレクション』を抑えてサーバー側のポートを共有化するのだそう。

ただ、これが合点がいけないのだが、試しに使っていた 9.2.0.1 では自分が見渡す限りこの操作に相当する管理インターフェイスを探しても見つけることはできなかった。レジストリを直接いじる操作になる。

なお、Windows ではレジストリだが、Unix の場合は環境変数に設定する値だそう。

3. OracleHome\NETWORK\Admin\tnsnames.ora ファイルを編集する。  
PROTOCOL / SERVICE\_NAME を見て、メインで使用しているサービス名を見つけ出し、SERVER を DEDICATED にする。

```
ILOVEXxx.ILOVEX.CO.JP =  
(DESCRIPTION =  
  (ADDRESS_LIST =  
    (ADDRESS = (PROTOCOL = TCP)(HOST = ilovexXX)(PORT = 1521))  
  )  
  (CONNECT_DATA =  
    (SERVER = DEDICATED)  
    (SERVICE_NAME = ilovexXX)  
  )  
)
```

クライアントから接続するサーバーのタイプを『共有サーバー (SHARED)』ではなく『専用サーバー (DEDICATED)』にしなくてはならない。  
(デフォルトがいずれになっているのかは環境に依存するようだが)  
『共有サーバー』にした場合は、デフォルトの TCP-1521 も使いながら、それ以外の通信用ポートも必要になるため。

ここまで設定してようやく通常の接続が可能となる。

なお、Oracle に付属している TNSPING.exe という設定確認ツールがあるが、これはあくまでも TCP/IP での ping 相当のものであって複雑な複雑な往復通信をするわけではない。

よって、TNSPING で接続が確認できたからといって通信が全くとまらぬとは限らない。

少なくとも上記設定は SQL/plus で接続できるかどうか試してみる必要があるようだ。

上記は Windows ファイアウォールによる制限を避けるための設定だが、一般的に Firewall や NAT(NAPT)/BOX を越えたような場所に Oracle がある場合は、同様の設定が必要になる。